年頭所感

将来ビジョンに向けた取り組み



公益社団法人 全国産業廃棄物連合会 会長 石井 邦夫

明けましておめでとうございます

皆様におかれましては、お健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、当連合会の事業運営につきまして、多大なご高配を賜り誠にありがとうございました。

また、昨年11月に古都、京都市において貴センター、㈶産業廃棄物処理事業振興財団、並びに当連合会の3団体主催により第10回「産業廃棄物と環境を考える」全国大会を開催し、全国各地から多くの関係者の皆様に参加をいただきました。誌面をおかりいたしまして、心よりお礼申し上げます。

昨年は、未曾有の災害をもたらした東日本大震災をはじめ全国各地で甚大な災害が発生した年でございました。被災地域及び被災者の方々の一日も早い復旧・復興をご祈念申し上げますとともに、国を挙げてのなお一層の支援が望まれるところでございます。当連合会と致しましても、被災地の県協会並びに全国正会員と連携を図りながら、可能な限りの支援に努めて参りました。

また、政治・経済においても、国内外に多くの問題や変化の起こった年でございました。国内では、超円高の産業界への影響、TPP参加の動き、大阪都旋風、国際的にはユーロ圏の金融・経済危機、中東地域の民主化運動と政情不安による原油の高騰など我が国政財界に大きく影響する諸問題が次々と発生した1年でございました。

このような情勢にあって、我々産業廃棄物処理業界は、依然として経済不況の長期化する中、景気上昇の萌しが見えず、非常に厳しい事業環境が続きました。

さて、今年は、まず東日本大震災の災害廃棄物処理等が本格的に進展し、復旧・復興が進められることを期待します。連合会と致しましても、正会員協会及び会員企業と連携し、協力して参りたいと思います。

また、最近の傾向に鑑みますと、我々は環境ビジネスとして産業廃棄物処理業の振興を図るべき方向転換の時期であり、国の諸施策においても静脈産業の育成が展開されると私は受け止めております。安心・安全な適正処理の確保、循環型社会の構築及び地球温暖化対策などへの対応はもちろんのこと、新たな役割を果たすべく自社の事業に取り組むことが肝要であると考えます。産業廃棄物排出量の減少、また一方で最終処分場の逼迫、加えて処理業態の変化など非常に厳しい事業環境が続くことが予想される中、事業の高度化や協業化、ネットワーク化など、将来ビジョンに向けた取り組みを進めたいと思います。

そして、このような時にこそ、将来の企業・事業を担う人材の確保と育成が肝要と考えます。貴センターの「業の許可申請に関する講習会」につきましては、講習会テキストが充実した内容に改訂され実施されておりますが、引続き実施協力団体として当連合会及び正会員協会としっかり協力させていただきます。また、貴センターと共催の産業廃棄物処理実務者研修会をはじめ、今後人材育成については連携を密にして参りたいと思います。

さらに、マニフェストについては引き続き啓発・普及・頒布事業を進めるとともに、電子マニフェストについてもその普及に協力して参ります。

私ども連合会と致しましては、循環型社会形成に向けた産業廃棄物処理業の役割を果たすべく、47正会員協会とともに事業推進に邁進して参る所存です。

従いまして今後共、貴センターとの協力体制を密にして、事業活動の推進を図って参りたいと存じます。本年もよろしくお願い申し上げます。